

主催：あわホームホスピス研究会 共催：【在宅医療連携拠点事業所】徳島往診クリニック

この事業は日本ホスピス在宅ケア研究会の助成金を受けています。

第1回 在宅ホスピスケアボランティア研修

—徳島初、地域をまきこんだ看取りのしくみ造りが始まります—

あなたも参加しませんか!?

あわホームホスピス研究会は、ホスピスケアの理念に基づき、病气療養者、特にがん患者と家族への支援の仕組みのひとつとして、保健医療福祉職と共にチームを組んで、活動を行うボランティアの育成を始めます。

まずは、日ごろ、在宅療養にかかわっていらっしゃる専門職の皆さんに、ケアボランティアの役割を知っていただくために研修を開催します。

今後も継続的に開催されますので、ご関心のある方は、下記連絡先までお問い合わせください。



対象者 介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員・薬剤師・看護師等、在宅療養にかかわる方
(注：1年以内に身内の方を看取った経験のある方はご遠慮ください)

定員 20名

日時 1日目 2012年9月8日(土) 午後2時～2時間程度
2日目 2012年9月29日(土) 午後2時～3時間程度

受講料 各回 500円(資料代)

会場 徳島往診クリニック附属訪問看護ステーションホール(徳島市沖浜東2-17ふれあい健康館となり)

申し込み方法 参加する方の氏名、職種、所属、連絡のつく住所と電話番号・メールアドレスを下記へご連絡ください。

◆メール送信◆ gotaneko5@yahoo.co.jp

◆郵送◆ 〒773-0015 小松島市中田町字千代が原23-2 福井 方
あわホームホスピス研究会 五反田 千代

研修プログラム

※両日ともアンケートとグループワークにご協力いただきます。

	内 容	講 師
1日目 総論 9/8	在宅ホスピスケアボランティアの役割 がん患者と家族の理解	あわホームホスピス研究会 五反田 千代
	疼痛緩和の実際	徳島往診クリニック院長 吉田 大介 氏
2日目 各論 9/29	傾聴—自分を物語る意味— (ロールプレイを通して)	あわホームホスピス研究会 五反田 千代
	在宅緩和ケアの実際 看取りの過程とケア	訪問看護認定看護師 長谷 康子 氏

第1回在宅ホスピスケアボランティア研修画像 9月8日撮影



在宅ホスピスケアボランティア研修プログラム

1日目 9/8(土) 会場：徳島往診クリニック付属訪問看護ステーション

	内 容	講 師
14:00 ~ 14:10	ご挨拶	あわホームホスピス研究会 代表 五反田 千代
14:10 ~ 14:50	在宅ホスピスケアボランティアの役割 がん患者と家族の理解	あわホームホスピス研究会 代表 五反田 千代
15:00 ~ 15:40	疼痛緩和の実際	徳島往診クリニック院長 院長 吉田 大介
15:40 ~ 16:00	質疑応答 参加者交流	

2日目 9/29(土)

	内 容	講 師
14:00 ~ 17:00	傾聴 —自分を物語る意味— (ロールプレイを通して)	あわホームホスピス研究会 代表 五反田 千代
	在宅緩和ケアの実際 看取りの過程とケア	日本看護協会 訪問看護認定看護師 長谷 康子

※ あわホームホスピス研究会 代表理事 五反田 千代 紹介 ※

- 徳島県小松島市生まれ。両親の仕事の関係で、中高生時代は、徳島市内で過ごす。
- 父親の「男女関係なく、アカデミックな視野を持った日本人になれ」という教訓のもと、聖路加看護大学卒業(当時の学長 日野原重明氏に師事)。
- 虎ノ門病院・急性期病棟勤務(3年) 東京都調布市役所勤務(保健師業務25年)
- ボランティア活動
 - @ケアタウン小平デイサービス(4年間)
 - @ケアーズ(株)白十字訪問看護ステーション「暮らしの保健室」設立準備事務局(2011年)
- 資格 助産師・介護支援専門員、精神保健福祉相談員

保健師業務の健康相談・訪問看護活動の経験から、その人らしい生活や最期の迎え方について、住民の皆さんから教えられたことを元に現在の自分の活動があります。

主催 あわホームホスピス研究会
共催 在宅医療連携拠点事業所 徳島往診クリニック

講師略歴

吉田 大介 徳島往診クリニック 院長

平成2年3月 東京医科歯科大学 医学部卒業

平成2年4月 当時の東京医科歯科大学医学部 第2外科学教室入局。取手協同病院 麻酔科研修を経て東京医科歯科大学附属病院 外科、埼玉県草加市立病院外科等の勤務を経て、生まれ育った徳島に帰郷。

平成11年9月 在宅医療専門の徳島往診クリニックを開院、平成19年3月 法人化。

平成22年3月 徳島往診クリニック附属訪問看護ステーション設立。

平成22年5月 厚生労働省より在宅医療連携拠点事業を委託される。

平成22年8月 在宅医療連携拠点事業所 ハートホーム開設。

資格・役職等 日本外科学会認定医

徳島市医師会在宅医療連携委員会 副委員長

NPO 法人 日本ホスピス緩和ケア協会四国支部幹事

PCC（緩和ケア診療所）連絡協議会事務局長

日本在宅ホスピス協会世話人

全国在宅療養支援診療所連絡会四国ブロック 世話人

とくしま在宅医療推進フォーラム実行委員会代表

NPO 法人 AWA がん対策募金副理事長

在宅ホスピスネットワーク徳島代表

東京医科歯科大学 がん治療高度専門家養成プログラム講師

長谷 康子

資格・役職等 日本看護協会 訪問看護認定看護師

あわホームホスピス研究会 理事

徳島県生まれ・徳島市内在住

略歴 徳島県立看護専門学校卒業後、社会保険神戸中央病院等にて約9年間臨床看護を経験

1996年より徳島県看護協会にて、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所に勤務。

2004年 訪問看護認定看護師資格を取得、看護協会を退職

現在、あわホームホスピス研究会理事、グリーンケアの会等に所属。

自己紹介 私の強みはよく食べ、よく眠れる健康状態です。

看護の仕事はまず、自分が健康であることが基本であると感じています。

食べられて眠れることが、当たり前であると思わず、感謝していきたいと思っています。

あわホームホスピス研究会—第1回在宅ホスピスケアボランティア研修—

あわホームホスピス研究会 代表理事 五反田 千代

当研究会は、2012年7月14日6名の方の共感を得て、任意団体として発足しました。

ホスピスケアの理念に基づき、住みなれた徳島の地に「最期まで家で過ごしたい」と希望する方を支援する仕組みを造ることを目指しています。具体的活動内容として、①ホスピスケア・緩和ケアに対する理解を進めるための、普及啓発活動を行う②専門職とチームを組んで、療養生活をお手伝いするためのホスピスケアボランティアを育成する③がん患者と家族のための相談と休息の場所を造る、という事業計画を掲げてスタートしました。

今回、研究会の初めての活動として、介護福祉医療関係者に、ホスピスケアボランティアが、ケアチームの中でどのような役割を果たすか、患者家族にもたらすメリットについて理解を深めてもらうための啓発研修を開催しました。



	内 容	講 師
1日目	在宅ホスピスケアボランティアの役割 がん患者と家族の理解	あわホームホスピス研究会 五反田 千代
	疼痛緩和の実際	徳島往診クリニック院長 吉田 大介 氏
2日目	傾聴—自分を物語る意味— (ロールプレイを通して)	あわホームホスピス研究会 五反田 千代
	在宅緩和ケアの実際 看取りの過程とケア	訪問看護認定看護師 長谷 康子 氏

研修は、ボランティアが学ぶべき内容をダイジェスト版にして、二日制で行いました。また、徳島では初めての取り組みのため、研究会の理念やこれからの事業計画について、説明をしました。アットホームな雰囲気の中、参加者の方々は、真剣に聴講してくださいました。徳島県では、ホスピス緩和ケア施設は、10年以上前から、1箇所しかありません。今年に入り、急性期病院が、緩和ケア外来新設にあわせ、緩和ケアベットを確保しました。

今回の研修の定員20名と小規模で開催しました。以下は、アンケートの結果と評価です。初めての研修での反省を踏まえて、今年度は、11月2月に同様の研修を行っていきます。また、各所の病院の在宅部門や看護教育機関から、講演の依頼が集まってきており、医療介護福祉関係機関の方々の在宅療養やホスピスケア、在宅での看取りへの関心が高まっていることを示していると、今後の活動の展開に希望を抱いています。

アンケート結果と評価

(1) あわホームホスピス研究会の活動理念と在宅ホスピスケアボランティアの役割と意義についての理解

アンケート提出の約80%が何らかの関心を寄せ、期待をしていることがわかる。また、在宅ホスピスケアボランティアの役割に対する理解度に関きがあったものの主観的理解度評価で平均約70%を示している。二日目には、理解度最低値(30→50%)、平均値(70%→80%)とも上昇した。研究会の育成しようとするボランティア像をとらえてもらえたと思われる。研修参加動機については、誘われてきた人はほとんどなく、現在の仕事に役立てるためや研修内容や在宅ホスピスケアボランティアが、どのようなものかに関心を寄せて、自発的に参加した人が多かったといえる。

ボランティアをケアチームに組み込むことで、専門職が懸念することは、活動日時や時間帯が限られた

り、活動が突然できなくなることであった。これらは、ボランティアにもあるていどの責任があることを研修で理解してもらい、一人の患者に複数のボランティアがかかわるなど、ボランティアのコーディネートが研究会が責任を持って、しっかりと行っていくことが求められているということがわかる。また、期待される役割については、専門職にはいえない話を傾聴することや、公的サービスではできない内容の行為であった。それらの行為には、仲の良い友人や仲間うちで行うような活動内容が挙げられていた。これこそ、親身な友人として、ホスピスケアボランティアが位置づけることができるといえる。

(2) 今後の在宅ホスピスケアボランティア研修や研究会に期待されること

参加者の3分の1は、研究会の活動やボランティアに関して、参加などの協力をしたいと意思表示されている。また、8割の方は、今後の研究会の勉強会の開催、活動情報などを知りたいと希望している。また、アンケートまとめにあるように、一人暮らしの患者が安心して、自宅療養を続けられる支援の形を造り出していけるよう、研究会の取り組みの課題としていきたい。